ネットの危うさ 理解を

モバイル研・松川代表 講演会要旨

講演する松川由美さん

モバイルネットワーク研究所（熊本市東区）の松川由美代表は、子どもたちを取り巻くインターネットの危うさに警鐘を鳴らしている。3日、県庁であった講演会（県青少年育成県民会議主催）の要旨は次の通り。（西島宏美）

子どもは加害者にも被害者にもなりうる。無料通信アプリLINE（ライン）でやりとりしている友人同士のグループから、ある日突然除外される「仲間外し」はとてもショックなこと。しかし外した側は、相手を傷付けた加害者であるとの意識を欠いていることもある。

ネットの特徴を理解しないまま使っていることもトラブルの原因。限られた人に宛てたつもりの書き込みであっても、第三者を通じてあっという間に広がってしまう、という危険性を理解しなければならない。

大人は、子どものネット利用を監視してほしい。悪いサイトを閲覧していないかチェックするのは難しいが、日ごろから「最近どんなサイトを見ているの？」と声を掛けていれば把握できる。親子間のルールの参考例として、米国のある母親がつくった「スマホ18の約束」がある。パスワードを親に報告することやネットに頼らず実体験を大事にすることが盛り込まれている。

歩きながらスマホを操作するのはマナー違反。大人が「歩きスマホ」をしている様子を子どもが見て育つ社会ではいけない。子どもに教える立場にある大人も、規範意識を持つべきだ。